



岡山勝廣 後援会だより

青い豊か 海空大地



創ろうみんなに住みよい六ヶ所村を

第24号



平成22年6月

発行元 岡山勝廣後援会 〒039-3215 六ヶ所村大字倉内字笹崎1031-11
TEL 0175-74-2557 (FAX兼)
ホームページ: <http://www.kokayama.com/>
メールアドレス: koka@jomon.ne.jp

トピックス

岡山勝廣君、一般質問に立つ

質問

保育所・小学校等のトイレの洋式化について

(1~2ページ)

質問

長芋コンテナの利用状況について

(2~3ページ)

質問

村内の宿泊及び娯楽・スポーツ施設の設置について

(3~5ページ)

質問

尾駿レイクタウン北地区造成地の防砂対策について

(5ページ)

質問

口蹄疫対策について

(6ページ)

平成22年6月六ヶ所村議会定例一般質問

(1) 保育所・小学校等のトイレの洋式化について

岡山議員

近年、子供達の暮らす家庭のトイレはほとんど洋式化されていると思われまます。また、小学校へ入学して初めて和式トイレを経験する子供達も利用する機会が無い為、使い方がそもそも分からないという状況もあるようす。かつて、暗い、怖い、汚い、臭い、壊れているという「5K」と呼ばれた学校のトイレも今ではかなり改善されているようす。まず、トイレの洋式化についてですが、メーカーのTOTOによると現在購入している学校向けトイレの8割が洋式だといえます。やはり洋式化は進んでいると思われまます。トイレ関連企業により1996年に設立された「学校のトイレ研究会」によりまますと、



2009年度において全国で築20年以上の小中学校は全体の84%にものぼり、そのうち6割がトイレの改修を行っていないといえます。ということは、ほとんどの学校が未だ和式トイレのみである可能性が高いものとみられます。

六ヶ所村内においても、子供達の中には「学校のトイレに行けずに家に帰るまで我慢する」との声もあります。

そこで、村内の保育所・小学校では洋式トイレの普及率はどの程度なのか、又、今後の改善計画等考えているのか、村長のお考えをお伺い致します。

古川村長

の回答

洋式トイレの普及率についてでありませんが、まず村立保育所については、全体でトイレの数が30箇所、洋式が15箇所、普及率は50%となっており、へき地保育所については13箇所のトイレ全てが和式となっております。

また学校は小学校5校、中学校4校の計9校あり、トイレは256箇所設置されており、このうち洋式トイレは、小学校が全部で58箇所、中学校が13箇所設置されており、普及率では28%となっております。

次に今後の改善計画についてですが、議員ご指摘のとおり、生活スタイルの洋式化や下水道の整備普及に伴い新たに設置されるトイレはほとんどが洋式と思われる、今後一層洋式化が進むものと考えられます。従って、こうした生活環境の変化に対応した施設整備を進める必要があります。

村としても子供たちが安心して学べる快適な保育、教育環境の整備を進めることとしておりますので、保育所や学校などを始め公共施設のトイレについては洋式化を進める必要があるものと考えております。すでに建設中の尾駈小学校のトイレについては、8割程度を洋式トイレ

とすることにしており、今後整備予定の（仮称）七鞍平小学校についても同じような整備方針で進めることと致しております。

また、これ以外の保育所や小中学校についても、快適な保育、教育環境の整備という観点から、できるだけ早い機会に関係機関、保護者等の意見を踏まえながら、年次計画により、改善整備を図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(2)長芋コンテナの利用状況について

岡山議員

村では長芋生産農家の為に長芋用のコンテナを準備していると聞いております。そうした中で、農家の方々から「思う様に使えない」とか「使用料金についての疑問の声」が聞こえております。又、コ



ンテナの壊れた物の処分方法や在庫等についてどのような管理をしているのか、現在の状況をお聞かせ下さい。

古川村長の回答

本村の長芋生産は、土壌、気候等の栽培環境に適し、古くから栽培が行われ、近年では、栽培技術の高位平準化により耕種農家の主力栽培品目となっております。特に搬送及び運搬に多大な労力を必要とすることから、農家の作業負担軽減を図ることを目的として、平成16年度から平成18年度の3年間でスチール製コンテナ購入事業を実施し1,900基導入しております。

ご質問の農家が思うように使えない、利用料金について疑問の声があるとのことですが、長芋価格の安定や輪作体系の確立等により栽培面積も拡大し、既存のスチール製コンテナ数では、恒常的に不足しているのが現状であります。これ

を受けて平成21年度から本年度にかけて長芋コンテナ購入事業を実施し1,000基導入する予定となっております。総コンテナ数は2,900基となることから長芋栽培面積が拡大しても十分対応が可能であると考えております。

利用料金につきましては、ゆうぎ青森農業協同組合コンナ・パレット貸出規定で利用料金及び利用期間が定められ、農家の方々はコンテナ1基当たり180円の利用料を支払い活用していただいております。

また、壊れたものの処分方法や在庫等についてどの様に管理しているのかのご質問ですが、過去に導入したコンテナにおいて全壊したものは無く、一部破損したものについては、農家から徴収した利用料金を修繕費用として充当し、対応していると伺っております。

次に、在庫管理については、個々の農家の長芋出荷登録面積に応じて、コンテ

ナ貸出数を決定し、貸出状況、返却状況をシステムで一括管理し、在庫状況を適確に把握して運用しております。

いずれにいたしましても、個々の農家の利便性や生産性向上のため関係機関と連携しながら対応して参りたいと考えておりますのでご理解賜りますようお願いいたします。

(3) 村内の宿泊及び娯楽・スポーツ施設の設置について

岡山議員

平成20年3月のスポーツ交流事業に対する取組についての一般質問の中で村内の宿泊施設の整備、主に『ろっかぼっか』の宿泊施設の併設についてお伺い致しており、村としても様々な協議をなされていると思います。

そこで、私もたびたび『ろっかぼっか』を利用させて頂いておりますが、何気無





く周りの地形を眺めていて、この緩やかな起伏を活かせる物は無いのかと考える事がしばしば御座いました。そこで『ろつかぼつか』周辺に小さい子供でも気軽にソリ等の雪遊びに利用出来る『ミニスキー場』を設置し、赤ちゃん・子供が居て、雪遊びはさせたいが遠出が出来ずにいる方々の為に、又、子供達と一緒に雪遊びが出来、温泉に入り、ゆつくり宿泊出来る施設が有ればと考えております。

2008年のレジャー白書によりますと、国内のスキー人口は空前のブームとなった1987年から比較し3分の1近くまで減り、スキー場の数も約2割減少しているとの事です。この原因となつていのがやはり費用の問題だとのことです。調査の結果スキー一回当たりの費用は約2万3000円との事でした。この様な時代ですので、費用もあまり掛からず手軽に利用出来る施設の需要は有るのではないのでしょうか。

以上の事を踏まえ、家族の健康増進、親子の触れあいの場として『ろつかぼつか』周辺への『ミニスキー場』、『宿泊施設』等の設置について再度ご検討出来ないかお伺い致します。

古川村長の回答

村内の宿泊及び娯楽・スポーツ施設の設置についてでございますが、まず宿泊施設については、20年3月議会で「屋内スポーツ施設の中に宿泊施設が可能かどうかを協議してまいりたい」と答弁したところであります。その後庁内でのワーキンググループの検討結果を踏まえ、エネルギー関連研究開発に伴う研究者や研修者の増加等もあり、さらに「交流の場」、「学習・教育・研修の場」、「スポーツ振興」等に寄与できる利便性の高い施設として整備する必要性が高いものとして、60人規模の宿泊可能な「総合研修センター」を昨年8月に長期事業計画

に盛り込んだところでありますが、さらに具体的な計画内容の検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、ミニスキー場についてですが、冬期間の積雪と寒さの厳しい本村では、屋外でのスポーツ、レクリエーション活動が制限されている状況にあります。第3次総合振興計画にも、全ての年代で継続的な運動習慣の確立という目標を掲げていることから、村としても冬期間の体力維持のためのスポーツ施設は必要と考えているところです。

お尋ねの「ろつかぼつか周辺の地形を利用したミニスキー場の設置などを含めた再検討」ということでございますが、親子で触れあえる緩斜面かつ短い距離のコースを想定するものと推察いたします。近年、スキー、スノーボード等スキー場へ足を運ぶ人口が激減していると言われておりますが、村内に冬季のスポーツ、レクリエーション施設がないことから、村



民は自家用車で近隣市町村のスキー場に出向いて利用しているのが現状であり村民の健康維持と冬季スポーツ、レクリエーションの普及振興のため、貴重なご意見と受け止めさせていただきます。

村といたしましては、村内の既存体育施設との位置的整合性や合理的運営、さらには交通の利便、需要の予測、収支等について検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

(4)尾駿レイクタウン北地区造成地の防砂対策について

岡山議員

昨年の12月の一般質問にて尾駿レイクタウン北地区造成地の緑化対策についてお伺いしてりましたが、その時点では防砂ネット・植樹等の対策を進めているとの事でしたが、やはり現状においては

十分な対策とは言えないと感じます。

そこで、更なる魅力ある住宅街を形成する為に、防風林を備えた自然公園・宅地の芝生化、又、それらを適切に管理する仕組み作りなどの環境対策が検討出来ないかお伺いいたします。

古川村長の回答

尾駿レイクタウン北地区造成地の防砂対策についてであります。尾駿レイクタウン北地区は、工事着手から本年度で5年目となり、宅地分譲に関しては5月末現在で25区画、そのうち住宅は12戸建設され、現在も7戸が建設中となっております。

ご質問の防砂対策ですが、ご承知のとおりこれまで宅地用地への芝播種工事や道路沿線への植樹工事、防砂ネット設置工事を実施し、防砂対策に努めているところです。

しかしながら、未だに砂塵による苦情

をいただいておりますことから、本年度は更なる防砂対策として、自然公園の設置については、地区内に計4期造成工事において施工範囲約3.2ヘクタールの一部に種子付シートの張り付けおよび芝播種を実施し、造成したまま放置しない方策を取るとともに、その東側約2.45ヘクタールと芝の薄い宅地用地への芝播種工事を6月中に発注する予定としております。

また、今後の対応として、給食センター予定地の東側に植樹を実施したいと考えております。

自然公園の設置については、地区内に計画している3箇所街区公園のうち今後整備予定の2箇所については、十分な防砂機能をもたせつつ、周辺の環境にマッチした憩いの場として整備して参りたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。





(5) 口蹄疫対策について

岡山議員

宮崎県で牛や豚の口蹄疫が拡大している事を受け、本県では防疫対策が開かれ、宮崎県から牛などを仕入れた畜産農家は無いものの消毒などの感染防止策を徹底することを確認いたしました。

県は予防の鍵として、部外者の畜舎立ち入り禁止の強化を挙げ励行を求め、青森空港の国際線全便での帰国者の靴底消毒などの取り組みをしているとの事です。さらに、種牛30頭がいる、つがる市と野辺地町の県産業技術センター畜産研究所に近く、アーチ形の車両消毒器を配置する計画との事です。

当村も県内では畜産業の盛んな地域でありますので、村としてはどのような対策を講じているのかお伺いいたします。

古川村長の回答

はじめに、口蹄疫は家畜伝染病のひとつで、牛や豚などの偶蹄類が感染するウイルス性の急性伝染病であり、日本では家畜伝染病予防法において法定伝染病に指定されております。

症状としては、口や蹄などに水疱、潰瘍ができ、発育不良や運動障害を引き起こします。感染力が非常に強く、感染動物からの体液、分泌物、糞便との接触だけでなく、病原体が付着した粉塵により空気感染すると言われており、感染が確認された場合は、感染拡大防止対策が講じられ、半径10km圏内のすべての牛や豚等を対象に移動制限がされ、飼育する家畜はすべて感染した家畜と見なし殺処分の対象となります。

しかし、人に感染することはなく、感染動物の肉や牛乳を摂取しても、人体に影響がないとされております。

村としてはどのような対策を講じているのかというご質問ですが、感染防止に努める必要性があることから、緊急対策として畜産農家に消毒槽の支給と消石灰を配布し、感染防止対策を実施したところであります。

なお、ゆづき青森農業協同組合から去る5月24日に口蹄疫の防疫対策に対する支援要請の要望書が提出されておりますので、村としては要請内容を踏まえて早急に支援対策を講じて参りたいと考えております。

今後については、国が実施する感染拡大防止対策、県が実施する県外からの感染防止対策等の情報を的確に把握し、関係機関と連携しながら、連絡体制の強化を図って参りますのでご理解賜りますようお願い致します。

